

可茂農林事務所の普及活動状況 令和7年7月31日現在

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■可茂グリーンないちご栽培研究協議会 令和7年度事業検討会

可茂グリーンないちご栽培研究協議会（事務局：農林事務所）では、国の交付金「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用し、令和5年度から3年間にわたり、①防虫壁による害虫の侵入抑制、②天敵放飼技術、③紫外線照射によるうどんこ病の抑制技術の実証に取り組み、地域に適した減化学農薬技術の確立を目指している。

令和7年7月10日に令和6年度の実証結果の検討と本年度の事業内容及び実証計画について協議した。本年度は新規就農者ほか3名が新たに参加するなど、計14戸で実証を進めることとなった。

また、今年度は3か年事業の最終年度にあたるため、これまでの実証結果をもとに、地域の慣行に比べ化学農薬の使用回数を3回程度削減することを目標に、栽培マニュアルと産地戦略の作成を進めていく予定である。



【事業検討会の様子】

■可児夏秋茄子生産組合 出荷目揃会

7月4日、可児夏秋茄子生産組合は、可茂公設地方卸売市場において出荷目揃会を開催した。

例年に比べ2週間ほど早い梅雨明けと、灼熱の暑さが続くなか、それぞれが出荷用に持ち込んだなすの規格や詰め方等の確認が行われた。

J A、市場関係者から「県内で最も単価が高いと言われる可児地域のなすを、途切れることなく出荷してほしい」と呼びかけられ、組合員らは活気づいた。

一方、異常な高温が予想される夏に向け、各産地では高温対策として各種現地実証が進められている。本組合においても、安価で取り組みやすい高温対策として、バイオステイミュラント資材を活用し、その効果を確認していくことになった。

農林事務所では、現地実証を支援しながら、組合および関係機関と連携を図っていく。

(地域支援第二係)



【目揃会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会 摘果講習会及び農薬研修会の開催支援

美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会は7月8日に、同市蜂屋町で摘果講習会を開催し、会員及び関係者約20名が参加した。当日は、岐阜県農業経営課革新支援専門員の協力を得て、摘果作業の実演を行うとともに、農林事務所から、現在の生育状況や摘果の方法、高温対策、病害虫対策の栽培管理について指導した。

また、摘果講習会に続き、カメムシを対象とした防除に先立ち、改めて農薬を使用する際のルール、農薬の調整方法や農薬散布の注意点等について説明し、農薬の正しい使用を呼びかけた。

今後も、無人防除機の活用に関する協議に参加するとともに、堂上蜂屋柿の生産、販売拡大を目的とした活動の支援を継続する。

(地域支援第一係)



【摘果講習会の様子】